

身近な町道の改良整備を



内之倉成功議員

今後の町道整備

計画は

内之倉議員 宮之城町の合併五〇年が経過して、屋地・虎居の発展はもとより、佐志地区も合併当時からすると、大変な変わりようである。しかし、ここ四、五年の間に、大型店ができて、街並みはまた、変わろうとしている。

町長から、今まで提案のあった中心市街地の国道拡幅、土地区画整理事業、TMO事業は、国・県の「財政事情の悪化などで、本町の事業もあきらめざるを得ないことになってしまった。

農村部では、若者の多くが企業に勤め、高齢者だけが残っている現状のなかで、交通安全面からも、町道の拡幅改良等の要望の声が多い。本町の主要道路はよく整備されているが、山間地集落では舗装はされていないが、拡幅はできず、消防車、中型車が離合できないところも残されている。

三月二十二日には、新「さつま町」が誕生するが、財政は大変な情勢にあると思う。町民は、生活環境は平等に受けるのが基本と考えるが、町長はどのように判断し、新町振興計画に肉付けするのか。

年次的に

整備を進める

町長 町道整備は、従来から本町における普通建

設事業の中でも、最も大きなウエートを占めており、交通量の多い幹線道路はもとより、住民の皆さんに直結する生活道路は、「道路維持作業班」による整備のほか、一般財源による単独事業も導入して、積極的に整備を進めてきている。

今後、改良を必要とする町道については、「新町建設計画」の裏付けとなる総合振興計画並びに過疎地域自立促進計画に盛り込みながら、年次の整備を図っていくことにしている。今後、三位一体の改革などが、どのような影響を与えてくるのか、不透明な部分も残されているが、要望に応

えられるよう、今後も引き続き努力していきたい。

内之倉議員 合併を経験

した高齢者は、合併により中心部はよくなり、山間集落は目が届かなくなるのではといった心配をされている。佐志区内にある次の町道四路線について、今後の改良計画はどうなっているのか。

- ① 佐志中央線の拡幅改良について
- ② 佐志駅穴川線の拡幅改良について
- ③ 飯屋瀬大谷線の拡幅改良について
- ④ 前目二号線の拡幅改良について

建設課長 「佐志中央

線」 「佐志駅穴川線」については、交通量も多いことから、整備に向けて努力していきたい。残り二路線についても、新町建設計画のなかに盛り込みながら、改良に向けて努力していきたい。



「道路維持作業班」による、身近な生活道路である町道の改良整備